

(その四)

工場又は事業場の名称	興亜硝子株式会社 市川工場
------------	------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成22年度以前	平成27年度	平成28年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

(1) 計画年度(H28年度)VOC排出量の削減
①H28年度の塗料の使用量は、対基準年度(160t)に対して実績使用量は177tでした。 H28年度計画(180t)に対して実績(177t)で計画を達成する事が出来ました。
②VOC排出量につきましては、H28年度計画(110t)に対して、実績(100t)で計画を達成することができました。
(2) 原単位指標でのVOC削減管理：(VOC排出量/塗装通過本数)
H27年度の原単位指標では、計画20%削減に対して、実績38.3%で達成することが出来ましたが、更なる改善に努めます。
今後の方策として、生産効率の向上による塗料使用量の削減(塗装ガン設定での塗料吸着効率の向上、塗料余材の削減他)や水性塗料への転換等を継続して検討・推進し、VOCの削減に努めます。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	日新製鋼建材株式会社 本社製造所 鋼板工場
------------	--------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>ステンレス箔生産設備の一つである脱脂洗浄施設(脱脂クリーニングライン)において溶剤(ジクロロメタン)を使用している。</p> <p>H28年度において溶剤回収率が低下しVOC排出量が増加した。その結果、H28年度VOC排出量目標に対して大幅未達となった。</p> <p>上記対策として溶剤回収装置の活性炭エレメントの劣化更新を2017年6月実施しており以降の溶剤回収率の回復及びVOC排出量の低下を見込んでいます。</p>

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社日立産機システム 習志野事業所
------------	------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	1 2	2 2	2 9	9 4	9 9	9 9			

その他（1 9， 2 9， 3 9， 4 9， 5 9， 9 9）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 4 について
塗料調合時のビニール袋保護による容器の洗浄回数低減化を行いました。
対策 6 について
ワニス・溶剤を多量に使用する製品の製造を終了しました。
対策 7 について
塗装吊り具の鉤にフッ素コート保護を実施し洗浄シンナー削減を行いました。

- 5 計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{基準年度の排出等の量} - \text{計画年度の排出等の量}) / \text{基準年度の排出等の量} \} \times 100$$

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社パールマネキン パールデポ関東流通センター
------------	------------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9	2 1	2 2	2 3	2 9	3 3	5 2	9 1	9 4	

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

<ul style="list-style-type: none"> ・エコラッカー・エコシンナーの使用比率の増大により、有害物質の排出を抑制。 昨年改正された労働安全衛生法にも準拠する作業環境を整えている。VOCの排出量は、なかなか削減できずにいるのが現状であるが、PRTR物質を中心に特に有害と考えられる物質については大幅削減の効果を得ている。 ・同系色調達による抑制。 下塗りと上塗りとが同系色の物を調達することで、塗膜を薄化し、使用量を削減。 ・透ける塗料の作業工程に工夫を加える。 不透明な近似色下塗りで、塗装回数の削減を図り、塗料の使用量を抑える。 ・洗浄用シンナーの廃棄を抑制。 色の薄い物から濃い物への生産順序にて、洗浄回数と量を削減する。 ・返却商品への養生の徹底により、塗料を使用せずに出荷する割合を増やす。

(その四)

工場又は事業場の名称	
------------	--

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>・平成28年度は、労働安全衛生法の改正があり、特化則に9物質が追加されました。業務遂行の上で、VOCの削減は困難な面もありますが、溶剤・塗料をPRTRや特化則に抵触しない組成のものへ転換を図り、その方面では大きな削減率を達成しております。</p> <p>・業界の特性～リース物であるため、商品回転が宿命～という事情により、作業性を考えると、より安全な水性塗料または、弱溶剤性塗料への移行は難しいのが、現状ではあります。</p> <p>ですが、今後とも、トルエン・キシレン・エチルベンゼンなど含有しない、いわゆるエコ塗料の使用比率を増大せせる事を核に、塗料自体の使用量も減らすべく様々な手法を取り入れながら、生産に従事し、環境負荷の軽減・健康負荷の軽減に尽力して参ります。</p>
--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	アズマプレコート株式会社 市川工場
------------	----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
○A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

省エネと反比例の関係がありバランスをとるのに試行錯誤しています。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社淀川製鋼所 市川工場
------------	-------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2 1	2 2	5 6							

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 1
塗料、シンナーのフタ閉め、漏れ防止による溶剤管理の徹底
対策 2
製品品質安定化による塗料使用量の低減実施
対策 3
蓄熱式除去装置の安定運転の継続（1基平成27年12月に蓄熱式に変更）